

『マーキュリー・ファー』

久しぶりに兵庫芸術文化センターで「マーキュリー・ファー」を観て来ました。

『マーキュリー・ファー Mercury Fur』は、イギリスの劇作家で、日本ではポスト“デヴィッド・リンチ”と評されるフィリップ・リドリーが 2005 年に書き下ろした作品。極限の世界を生き抜こうともがく兄弟の姿から人間の究極の欲望や残虐性、生きること、愛することを求める強さや美しさを炙り出すダークファンタジー。

日本では 2015 年に白井晃の演出によりシアタートラムで初めて上演され、凄まじい印象を残した衝撃作で高橋一生や瀬戸康史らが出演した。

舞台『マーキュリー・ファー』吉沢亮&北村匠海で再演

荒廃した街、廃墟の一室にやって来た兄弟。騒々しく動き回り、彼らは謎めいたパーティの準備に必死に取り掛かる。

持ち込まれるパーティプレゼントは男の子、パーティーゲストは、軍人。パーティーゲストは、数日以内にここは爆撃されその後兵士がやってきて殺戮、凌辱が起きると教える。そして、怪しげなパーティは強引に始められ、怒声や悲鳴の飛び交うなか、残忍な暴力が繰り返されていく。最後は、爆撃されるところで終わる。

この過激で悲惨なフィクションが現実社会と地続きであること、その危機感やウクライナの報道もあってよけい込み上げて来た。世界中が見えない敵と戦い続けている今、終演後の放心が解けた今も、もやもやが残っている。

